



栗田工業株式会社

第 1 回

ESG説明会

クリタにおける社会との共通価値の創造

(証券コード：6370)

2021年3月19日

-
- 1** | クリタにおける価値創造の理念 p 1 - 7
 - 2** | 価値創造の仕組みづくり p 8 -24

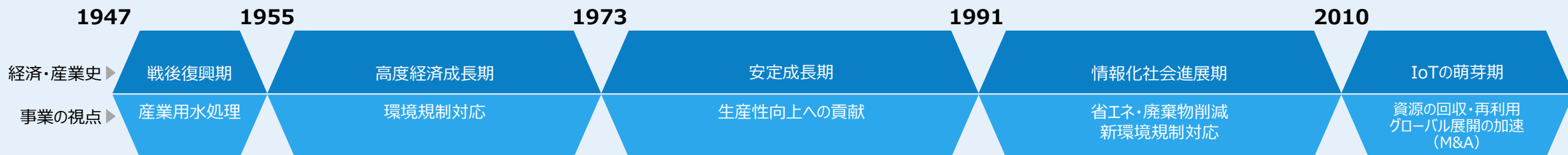
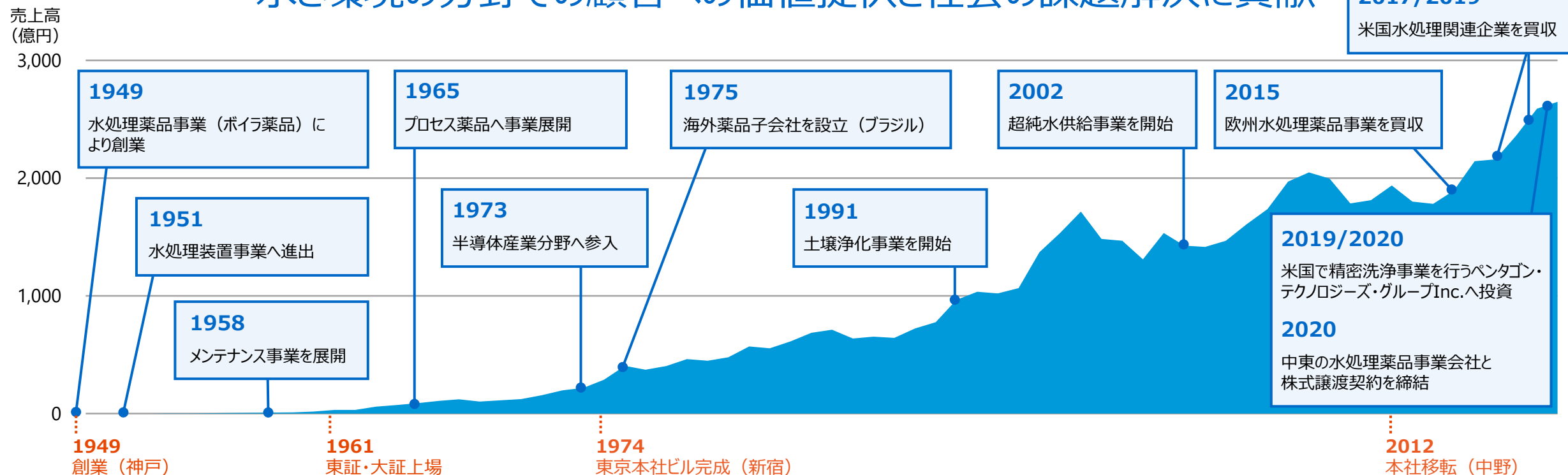
1 | クリタにおける価値創造の理念

代表取締役社長
門田 道也

価値創造のあゆみ



水と環境の分野での顧客への価値提供と社会の課題解決に貢献



クリタグループが事業を通じて、社会との共通価値を創造する意思を表明

“水”を究め、自然と人間が調和した 豊かな環境を創造する



水への拘りと
技術立社

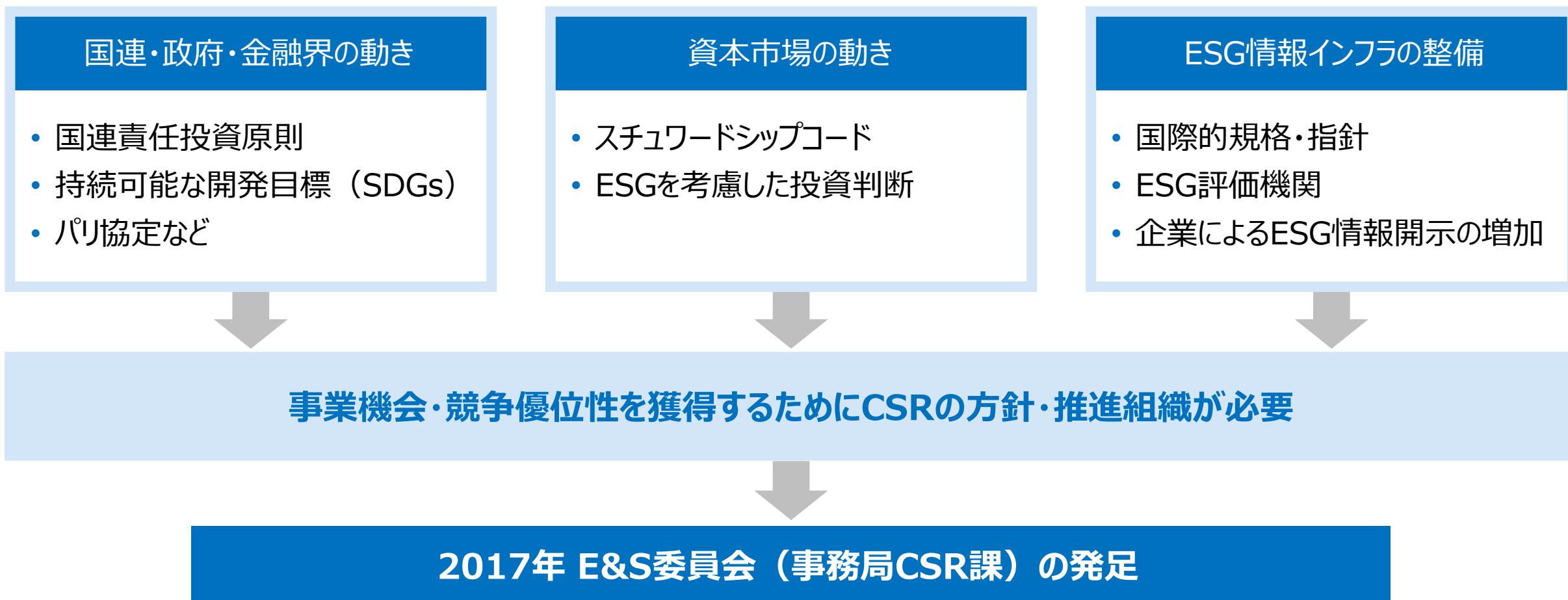


人間が生み出す
環境負荷の低減



持続可能な社会の
実現

持続的な成長を実現するために、CSRを経営の中核に据える

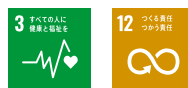


CSRに関する方針

水と環境の問題にソリューションを提供し、未来への責任を果たす

基礎テーマ

1. 安全性の高いサービス・製品を提供する



2. 公正に事業を行う



3. 人権を尊重する



成長機会テーマ

4. 水資源の問題を解決する



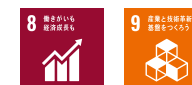
5. 持続可能なエネルギー利用を実現する



6. 廃棄物を削減する



7. 産業の生産技術を進歩させる



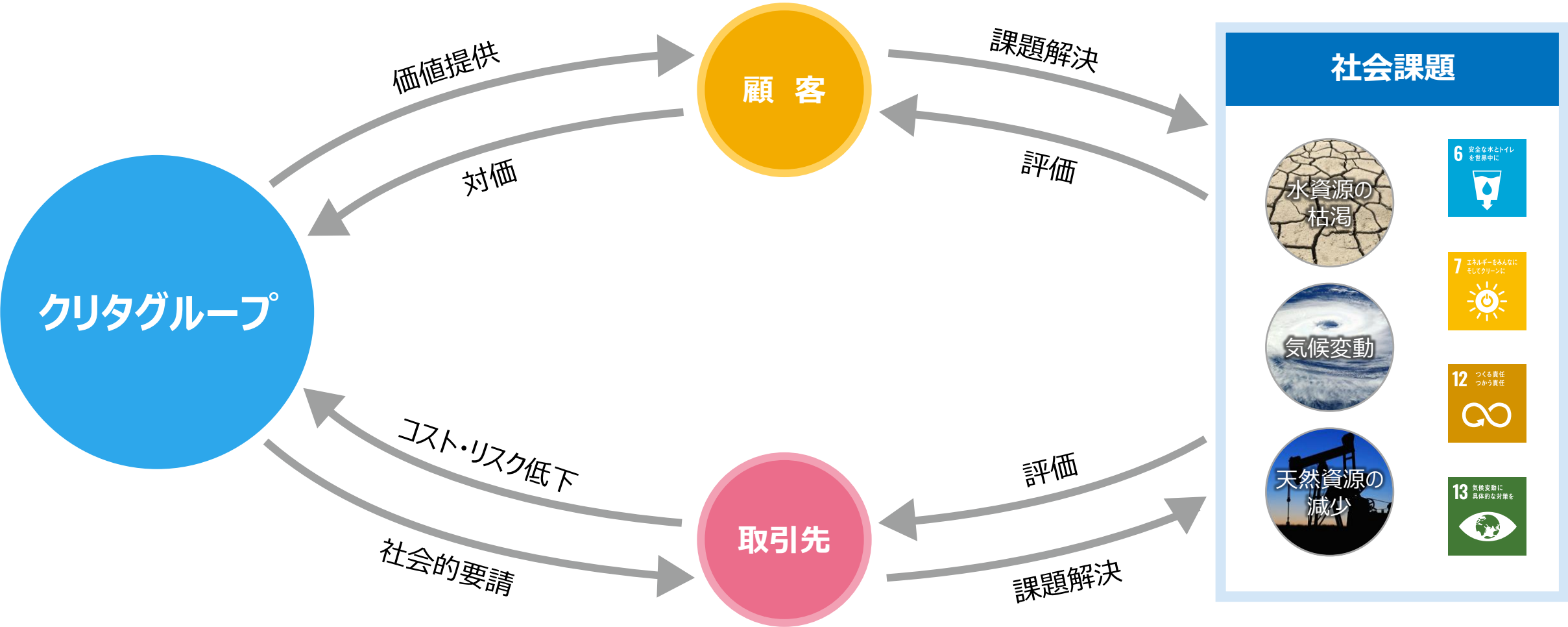
リスクの低減
資本コストの低下

企業価値の向上

社会との共通価値の創造

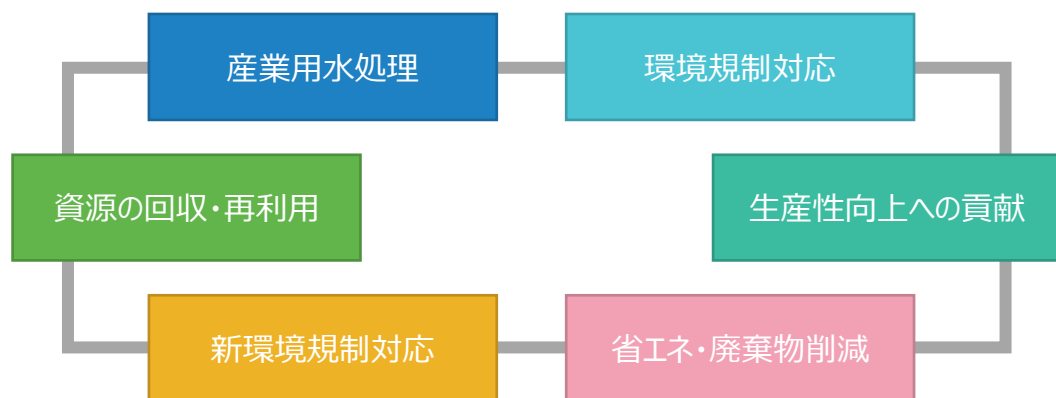
CSV

社会課題を起点とした価値の提供



社会課題に応えるソリューションやビジネスモデルを創出

これまでのクリタ



- 多種多様な現場接点
- 産業の水に関する経験の蓄積
- 総合的な製品・サービスの保有

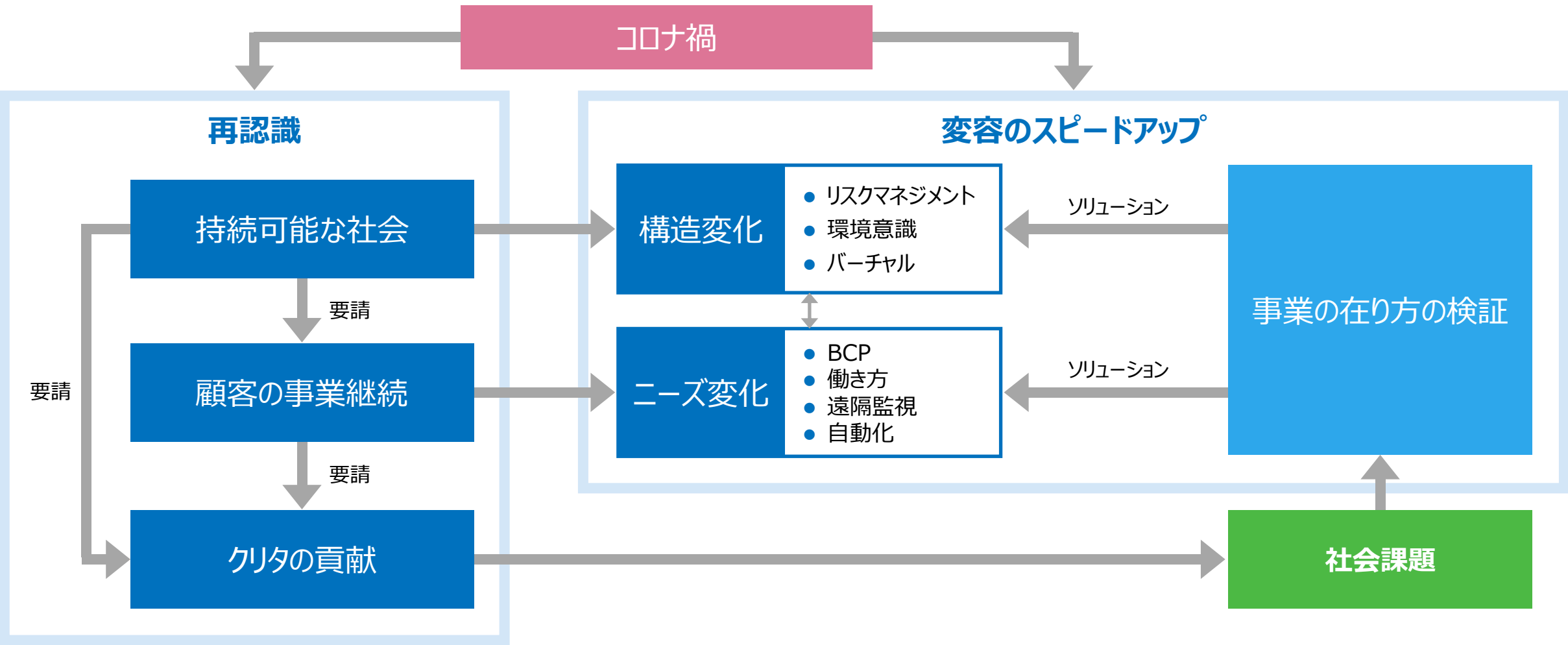
これからのクリタ

- 産業・社会における現場接点
- “水に関する知”の形式知化と活用
- グループ内外の広範な技術の融合

AI、
IoTの
活用

産業や地域の特性、社会課題に応える
ソリューションやビジネスモデルの創出

クリタ自身の変容が急務



2 | 価値創造の仕組みづくり

経営管理本部広報・CSR部
部長

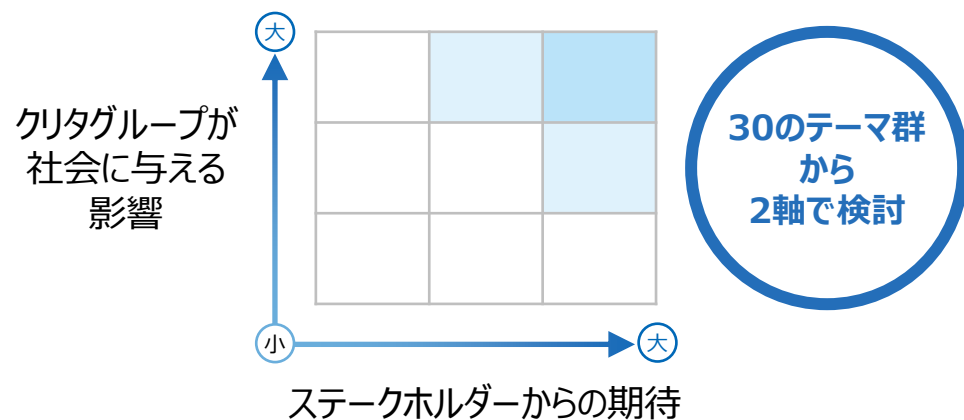
新井 孝輔

守り（価値毀損防止）と攻め（競争優位）に対応したCSR方針の制定

企業理念の再確認

CSRの定義と取り組む目的を整理

重点的に取り組むテーマ（マテリアリティ）の検討



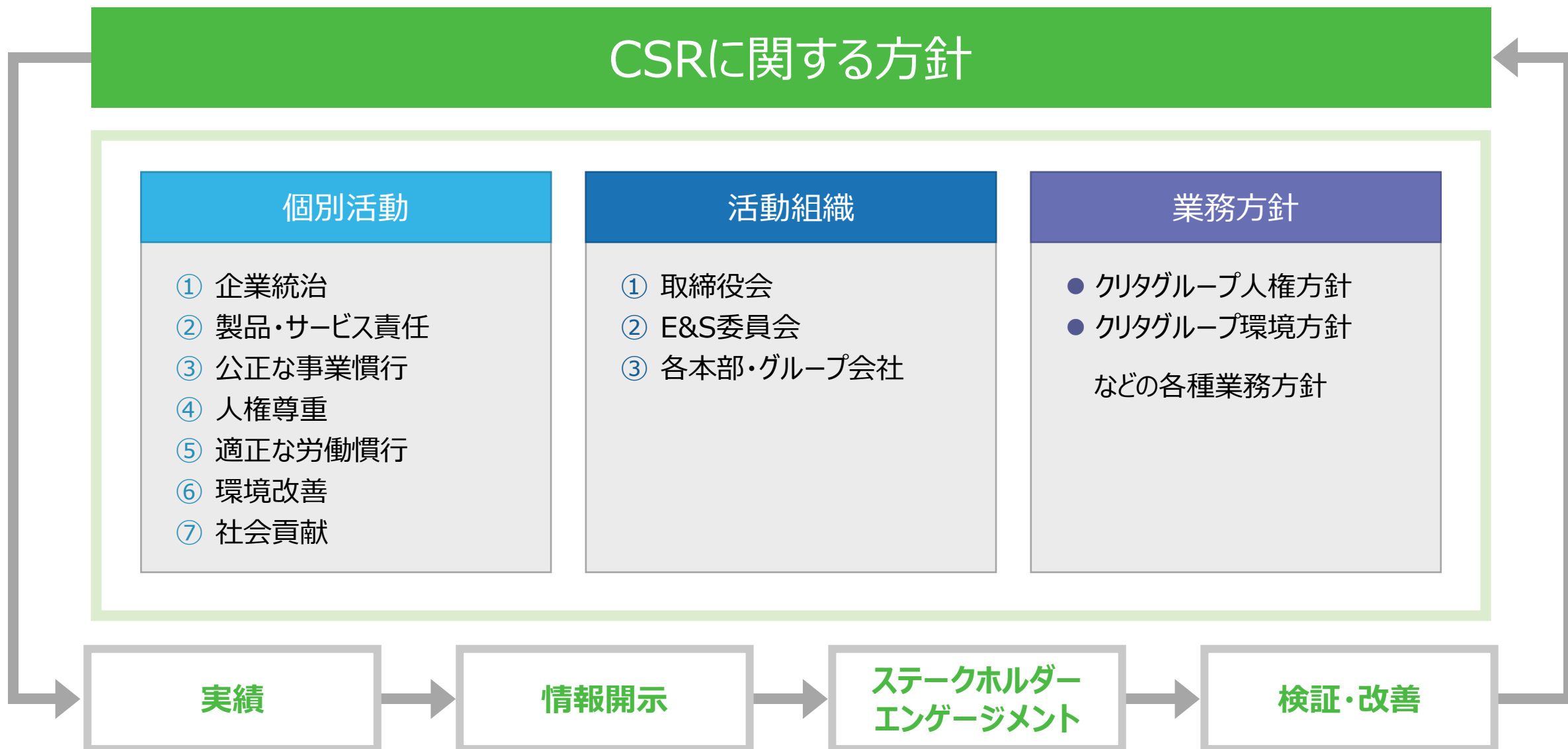
CSRに関する方針

水と環境の問題にソリューションを提供し、
未来への責任を果たす

重点的に取り組むテーマ

基礎テーマ	成長機会テーマ
1. 安全性の高いサービス・製品を提供する	4. 水資源の問題を解決する
2. 公正に事業を行う	5. 持続可能なエネルギー利用を実現する
3. 人権を尊重する	6. 廃棄物を削減する
	7. 産業の生産技術を進歩させる

CSV



企業理念の実現に向けたCSVビジネスの推進

企業理念 = 「水と環境」における社会的価値の創造

事業と環境改善活動の統合

CSVビジネスの運用開始

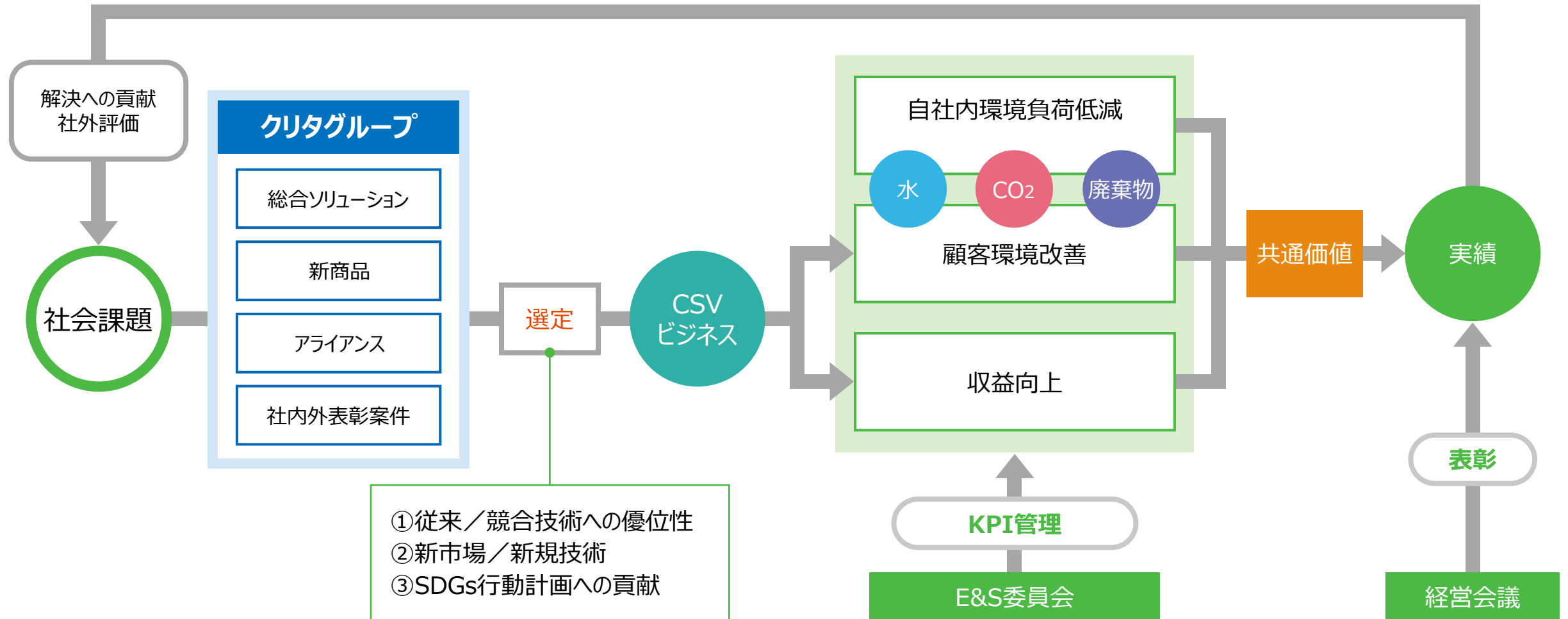
「節水」「CO₂排出削減」「廃棄物削減」での競争優位性確立

CSVビジネス選定基準

節水・CO₂排出削減・廃棄物削減に関して、

- ① 従来技術や競合技術に比べ効果大きい。 ② 既存技術の新市場適用、もしくは新規技術である。 ③ SDGs目標が示す行動計画に貢献する。

グループ全体でCSVビジネスを推進する仕組みを構築



	主な製品・技術・ビジネスモデル
ソリューションモデル	凝集センサーによる排水処理3Sソリューション
	製紙工程向け生産性操業効率改善及び環境衛生向上システム
	再生水供給サービス
	乾式・湿式メタンのバイオガス発電
非ソリューションモデル	- RO膜薬品 - 土壌・地下水原位置浄化技術 - 焼却炉向け薬品 - スライム付着防止技術 - 自動車塗装ブース向け薬品 - 低環境負荷水処理システム - 低圧ボイラ向け薬品 - 純水供給サービス - ドリームポリマー配合品 - 精密洗浄 - 高濃縮ポリマー配合品 - 化学洗浄 - 滴状凝縮促進技術



連結売上高比率

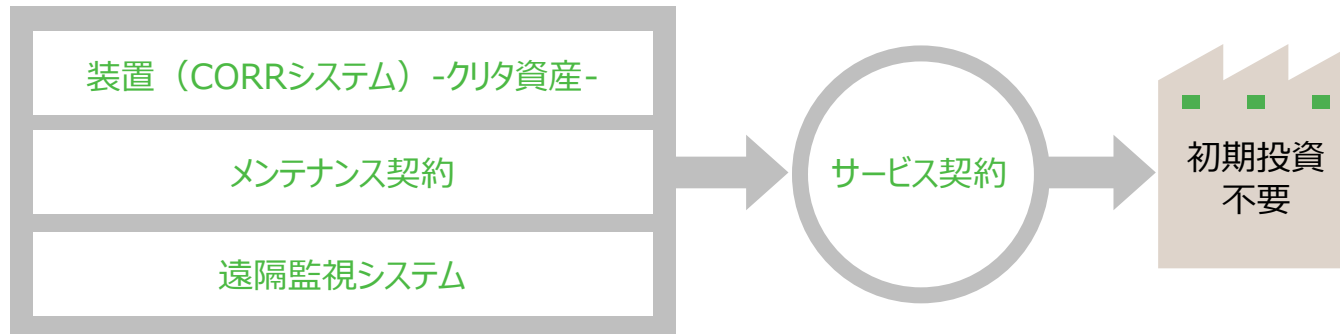
2020年3月期
14%

2021年3月期目標
15%

2023年3月期目標
20%

工場の水排出量の大幅な削減に寄与するサービス

再生水供給サービス



CORRシステムとは

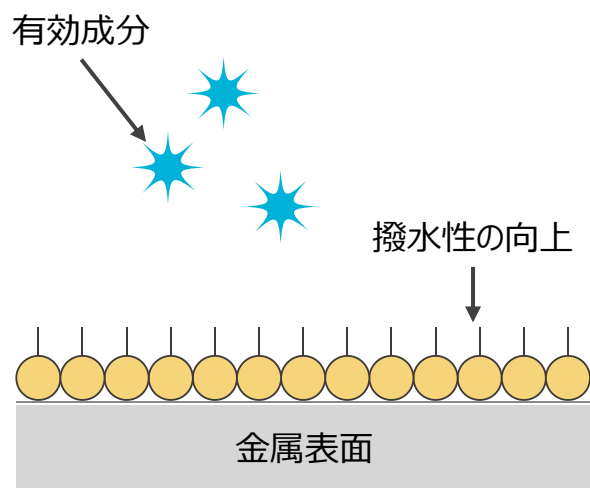
原水水質に応じて、機能剤/材の最適化を図り、設備費を抑え安定水質・安定運転に寄与する標準型排水回収装置。

お客様への提供価値

- 節水
- 処理水質の安定化
- 運転管理の省力化

蒸気の凝縮時に、熱抵抗となる水膜を滴状に変えることで熱伝導率を向上

クリタドロップワイズテクノロジーのメカニズム



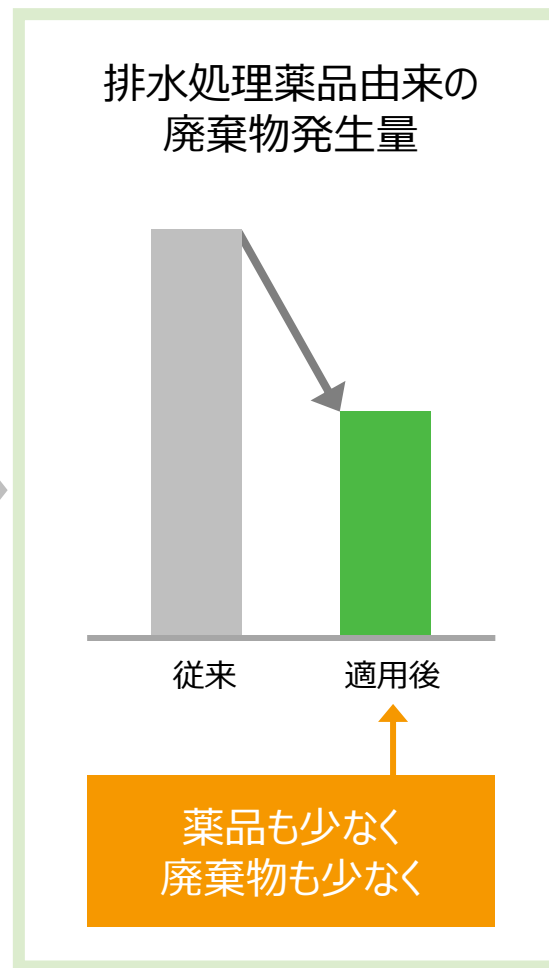
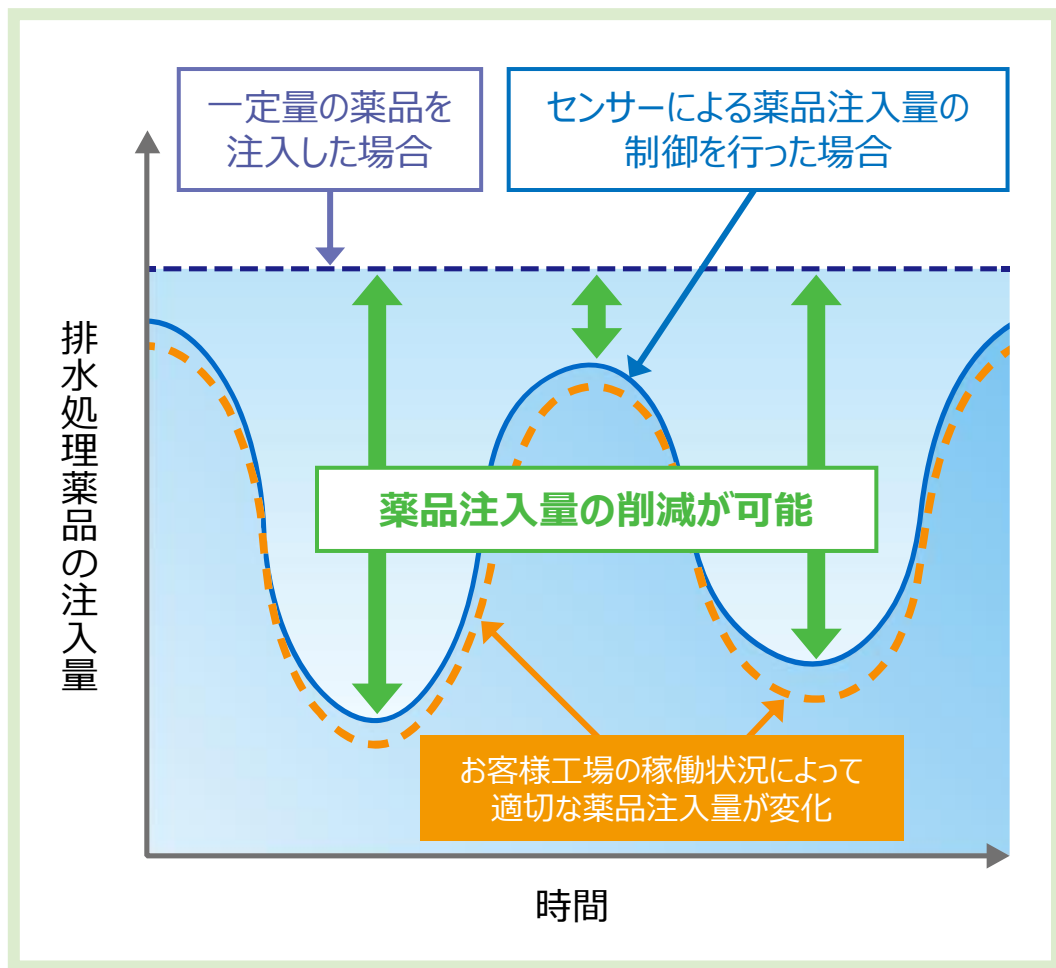
従来技術との比較



お客様への提供価値

- CO₂排出削減
- 生産性向上

凝集センサーによる排水処理3S（Stable・Secure・Saving）ソリューション



お客様への提供価値

- 薬品使用量の削減
- 廃棄物削減
- 処理水質の安定化
- 運転管理の省力化

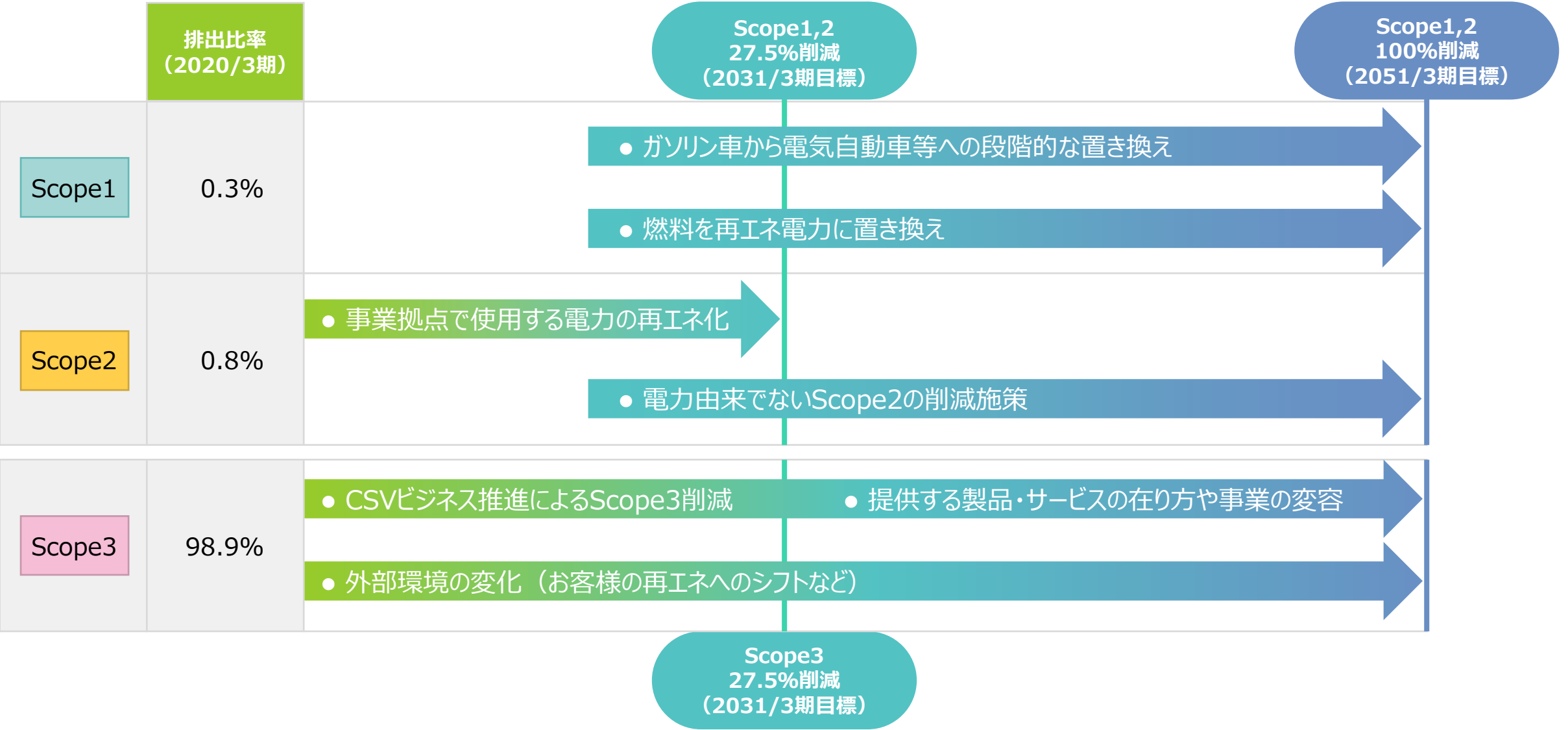
TCFDの考え方に基づくリスクと機会の評価ならびに施策の策定

分類	リスク・機会の内容	クリタグループの施策
政策と法	リスク 炭素税の導入や増加 リスク GHG排出量の多い製品やサービスへの規制 機会 GHG排出量の少ないエネルギーへの転換を支援する政策インセンティブの普及	- デジタル技術の活用や設計等の見直しによる製品やサービスの低炭素化 - 代替燃料や再生可能エネルギーへの転換によるScope1および2の削減 - バイオマス発電など、再生可能エネルギー関連事業の展開・拡大
テクノロジー	リスク/機会 GHG排出量の少ない製品やサービスへの転換が進む	
市場	リスク 化石燃料関連セクターからの需要減少 機会 DXの加速による電子産業の需要増加 リスク 原料、エネルギーコストの高騰	
物理的な影響	リスク サイクロンや洪水などによる工場停止や工期遅延の増加 機会 冷却設備の稼働率増加	水害対策など、自然災害に備えた事業継続体制の継続的強化
資源効率	機会 効率的な生産や流通プロセスの普及 機会 水使用量の削減	- デジタル技術の活用や低動力技術の展開 - バイオマス発電など、再生可能エネルギー関連事業の展開・拡大
エネルギー源	機会 GHG排出量の少ないエネルギーの普及 機会 分散型エネルギー源への転換	
製品とサービス	機会 GHG排出量の少ない製品およびサービスの需要増加 機会 GHG排出削減に向けた多様な技術ニーズの増加	
レジリエンス	リスク/機会 燃料、水資源等の代替や多様化	

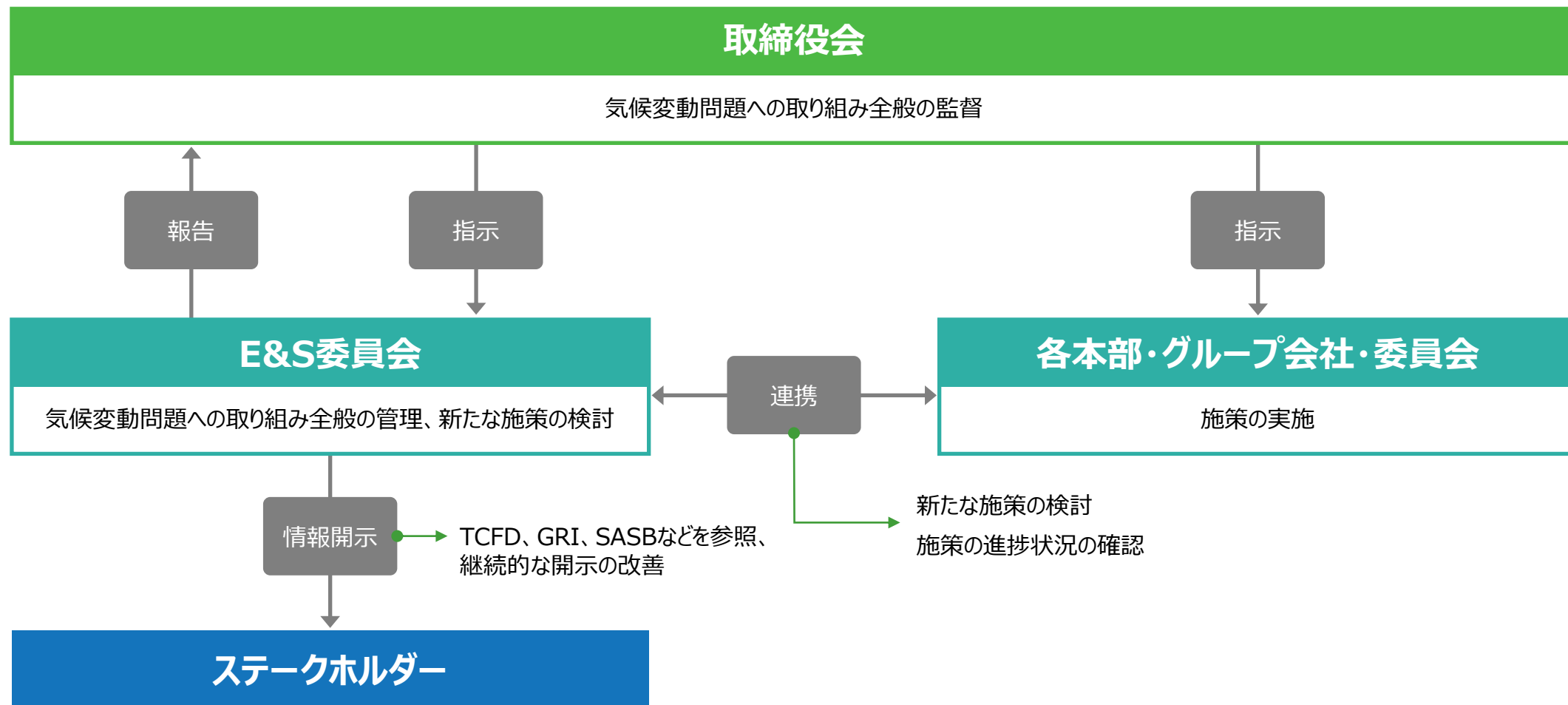
SBTiが示す手法に沿って2020年3月期を基準年として
「Well-below2℃水準（2℃を十分に下回る水準）」にて長期目標を設定

CSRに関する方針の重点的に取り組むテーマ	指標	2023/3期	長期目標	
			2031/3期	2051/3期
5. 持続可能なエネルギー利用を実現する	顧客排出CO ₂ 削減貢献量 － 自社排出CO ₂ 量	10千t	—	—
	Scope1および2排出削減 (2020/3期からの削減割合)	—	27.5%	100%
	Scope3排出削減 (2020/3期からの削減割合)	—	27.5%	—

気候変動問題への取り組み（目標達成に向けたスケジュール）



取締役会がコミットする推進体制



CSRに関する方針に基づく環境改善活動と連携させ効果的に推進

Water Resilience Coalition

ビジョン

世界的な水レジリエンスの確立 必要な場所に、必要な量と質の水を安定的に供給できる世界を作る

誓約



水ストレス* を受けている流域における水量、水質、水アクセスの改善



公共団体や企業への働きかけを通じた、水問題に対する関心の世界的な向上



バリューチェーン全体での水ストレス改善への取り組み

* 人口1人当たりの最大利用可能水資源量が1,700m³/年を下回る状態。

設立会員（9社）

- アンハイザー・ブッシュ・インベブ
- ディアジオ
- ピービーエイチ
- ギャップ
- マイクロソフト
- カーギル
- ダウ
- エコラボ
- 栗田工業



参加企業

一般会員（9社）

- コカ・コーラ
- ウールワース
- カミンズ
- リーバイ・ストラウス
- インターコンチネンタルホテルズグループ
- ダノン
- コルゲート・パーモリーブ
- ハイネケン
- グラクソ・スミスクライン

（2021年1月現在）

設立会員会議と3つのワーキンググループで取り組みを推進

運営体制と取り組みの概要



WRCへの参加を機にPDCAサイクルに「社外団体」との関わりを追加

	Plan	Do	Check	Action
当社の取締役会	CSRの取り組みのグループ課題を踏まえた、中期経営計画/事業計画を策定		- CSRの個別活動の実績を確認・評価 - ステークホルダーの期待・懸念・要請を認知・受容	
E&S委員会	CSRの取り組みのグループ課題を形成し、CSRに関する方針とKPIの立案	- CSRの個別活動の進捗を確認 - CSRに関する情報を開示 - ステークホルダーとの対話を実施	- CSRの個別活動の実績の集約 - CSRの個別活動の実績を、ステークホルダーの期待・懸念を踏まえた評価・分析	- CSRに関する方針やKPIの見直し - 活動結果および改善策を取締役に報告
各種委員会 当社の各本部 各グループ会社	CSRの個別活動の課題、中期経営計画/事業計画を踏まえた施策の展開	- CSRの個別活動を実施 - CSRの個別活動の実績をE&S委員会に報告 - ステークホルダーとの対話を実施	- CSRの個別活動の実績の評価・分析 - ステークホルダーの期待・懸念の確認	CSRの個別活動の施策の見直し
社外団体	社外団体の計画策定プロセスに積極的に参加	社外団体と連携した活動の実施	社外団体の活動と、当社グループのCSRに関する方針の方向性の一致の確認	必要に応じて、対象の社外団体での活動継続について再検討

ESG評価の状況（2021年3月現在）

ESGインデックスへの組み入れ

FTSE4Good Index Series



FTSE4Good

FTSE Blossom Japan Index



FTSE Blossom
Japan

MSCI ACWI ESG Leaders Index



MSCI日本株女性活躍指数（WIN）

2020 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

SOMPOサステナビリティ・インデックス



Sompo Sustainability Index

ESG格付け機関からの評価

ISS-ESG



サプライヤー評価機関からの評価

EcoVadis



※ 栗田工業株式会社がMSCIインデックスに含まれること、および本ページにおけるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連会社による栗田工業株式会社への後援、保証、販促には該当しません。
MSCIの独占的所有権：MSCI、MSCIインデックス名およびロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標もしくはサービスマークです。

当社グループの価値創造を表す開示

- TCFD提言に沿った情報開示
- 従来はGRIスタンダードを参照
- 今後はSASBの項目や指標を参照
- 複数の枠組みの統一も注視

継続的な開示の改善

課題

基準への対応だけでは、当社グループが創造する価値を適切に表現できない場合がある

独自の指標

「顧客での環境負荷低減」

「自社での環境負荷量」

価値創造ストーリーとの紐づけ



将来見通しに関する注記事項

本資料に掲載されている計画数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

本資料内で使用している商標（製品、サービス、ロゴ）は、当社または当社に使用を認めた権利者に帰属します。